

What's New?

No.301

最終号

(公財)東京市町村自治調査会は、東京都全市町村の総意によって設立され、多摩・島しょ地域における広域的課題や共通課題の調査研究、情報提供、多摩地域の広域的市民ネットワーク活動に対する支援などを行っています。

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第4回 利島村

What's New?では、島しょ地域における、まちの取組や観光資源、役場の概要、職員の方へのインタビューなどをシリーズで紹介しています。大島町、御蔵島村、神津島村に続いて、今回は利島村の特集です。

利島(としま)とは?

利島は、都心から南約140kmに位置し、伊豆大島と新島の間に浮かぶ、端正な円錐形のシルエットの島です。島の周囲は約8km、面積は約4km²で、飛行機や船から見て、一目でわかる島影です。東京都の島しょ地域の町村の中でも一番面積が小さい利島には、美しい自然とともに、昔ながらの温かい人づき合いやのどかな暮らしが残っています。

小さいながら島の中心には宮塚山(みやつかやま)がそびえ、斜面の至る所で、島の面積の約8割を占める椿(つばき)の木々を見ることができます。椿油の生産量では全国一を誇り、また、伊勢海老、サザエなどの漁も盛んです。

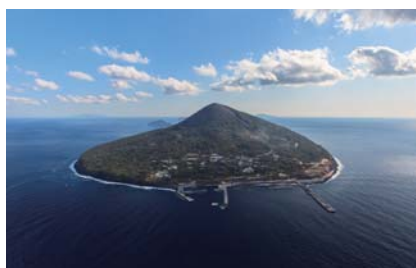
島北部の比較的ゆるやかな斜面に集落があり、全島民の約300人がここに暮らし、港や役場、商店、民宿などがすべて集まっています。海底火山の噴火によってできた島は、断崖絶壁に囲まれ、砂浜はありません。しかし、釣りはもちろんのこと、巨木を訪ねたり、野鳥や星を観察したり、自然探検を楽しむことができ、初夏には華麗な「さくゆり」が、冬には島一面を真っ赤に染めるかのように咲き誇る椿の花が迎えてくれます。また、石器や銅鏡などの出土品や古い神社は、島の長い歴史を今に伝えています。

利島にはゆったりとした時間が流れ、静かな世界が広がっています。

■東京島しょ地域の概要



▲冬には島全体に椿の花が咲き誇る



▲愛らしい島影が印象的な利島



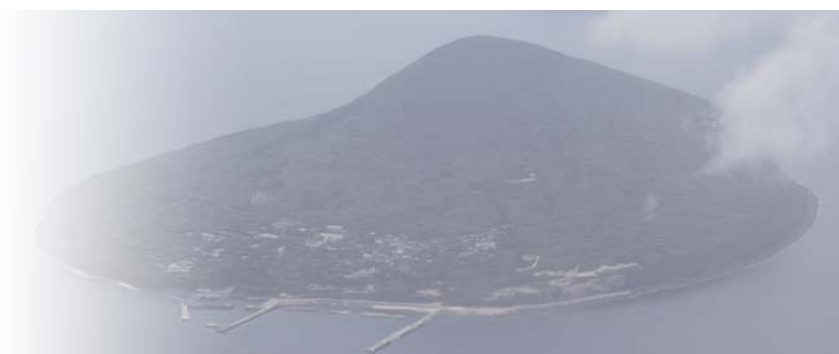
▲特大サイズのサザエが名物

～ 椿とさくゆりの島～

利島村



toshima



見所①【宮塚山】

島の中心に位置する宮塚山は、標高508メートルの山で、頂上近くの展望台からは、集落が一望できるとともに、伊豆大島や、伊豆半島、富士山にかけての大パノラマを楽しむことができます。

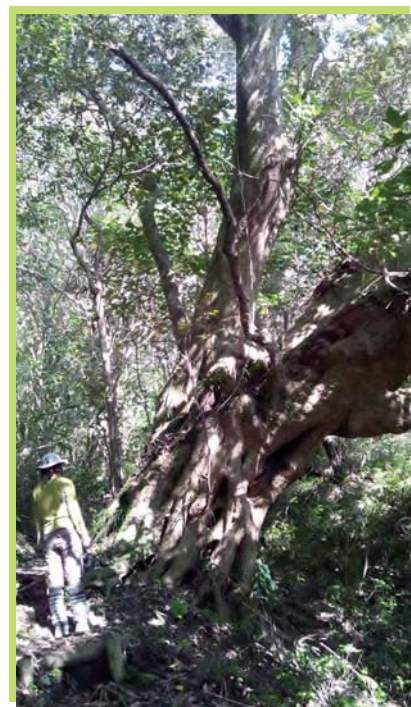
山腹は様々な巨木に覆われており、巨木巡りのハイキングコースでは、スタジイ、タブなどの珍しい大樹に出会うことができます。山頂までは1時間ほどで気軽に登ることができます。



▲利島港から望む宮塚山



▲宮塚山の展望台からの見晴らし



▲宮塚山の原生林で見られる巨木

南ヶ山(みなみがやま)園地

宮塚山南側の丘に広がる緑地公園です。園内の展望台から望む景観は「新東京百景」にも選ばれているほど雄大で、晴れた日には遥か三宅島や御蔵島までも一望することができます。また、園内には芝生の広場やバーベキューのできるキッチンガーデンなども備えられています。

日が暮れると、利島の空は天然のプラネタリウムとなります。この園地では、晴れた日には、一面に広がる満天の星空を眺めることができます。

利島で見る島々の風景や星々の輝きは、自然の美しさや偉大さを伝えてくれます。



▲南ヶ山園地から望む伊豆諸島の島々

ウスイゴウ園地

宮塚山の東側に位置する公園で、利島で一番早く日の出が見られる場所です。「ウスイゴウ」とは、「朝日のさす所」という意味です。

展望台のほか、利島で発掘された古代の住居を模した東屋や銅鏡を模した池などがあります。園内には花も多く、時季に椿や「さくゆり」の花が咲く光景は見事です。



▲ウスイゴウ園地の展望台と雄大な大海原

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第4回〈利島村〉

島の概要(平成25年4月1日現在)

- *位 置 都心から南に約140kmの海上に位置する島
 - *面 積 4.12km²(周囲7.7km)
 - *人 口 296名 世帯数 162世帯
 - *アクセス(船または飛行機・ヘリコプター)
 - ・航路 【東京(竹芝桟橋)～伊豆大島～利島】(東海汽船 株式会社)
 - ① 高速ジェット船 (約2時間20分)
 - ② 大型客船〔夜行便〕(約7時間30分)
- ※いずれも時季により変更あり

- ・空路 [※直行便なし]
- 【伊豆大島経由①】
調布飛行場 → 大島空港(新中央航空 株式会社〔セスナ機〕)(約25分) → 利島ヘリポート
(東邦航空 株式会社〔ヘリコプター〕)(約10分)
- 【伊豆大島経由②】
羽田空港 → 大島空港(ANA)(約35分)
→ 利島ヘリポート(東邦航空 株式会社〔ヘリコプター〕)(約10分)

見所②【椿の島-利島の椿油】

利島は、伊豆諸島の中で最も土地が肥よくと言われ、作物の栽培や樹木の生育に適しています。島の約8割が椿林に覆われ、その本数は約20万本とも言われています。島の斜面には至る所に椿の段々畑が広がっており、冬の寒さが続く2月ごろ、椿の花は島全体を赤く染めるほどに咲き誇ります。そして、落下した花が畑を敷き詰めると、まるで“椿のじゅうたん”のように深紅に彩られた独特の美しい光景が広がります。

冬満開に咲いた椿は、夏にはたくさんの実をつけ、秋になると熟して種子を落とします。この椿の実を、農家の方々の手作業で一粒一粒拾い集められ、島内にある「利島村椿油製油センター」へと運び込まれます。

製油センターでは、集められた実が丁寧に精製され、良質な椿油が造られます。このように利島の椿油は、島で収穫された無農薬・自然栽培の椿実を100%使用し、島内の工場で製造された純利島産です。

島の椿油生産は、250年ほど前の江戸時代から行われており、先祖から代々受け継がれてきた伝統産業です。現在では、全国の椿油の生産量の約6割を占め、第1位を誇っています。伝統と実績ある“日本一”の利島産椿油は、美容品から食品まで様々な製品に加工され、高い人気を得ています。製品は、東京島しょ農業協同組合利島店などで購入できます。



▲ひしめくように咲く満開の椿



▲これが椿の実 精製され椿油に



▲“椿のじゅうたん” 落花が一面を覆う光景も美しい



▲先人から代々受け継がれる農作業の風景



▲利島産の椿油 ぜひ美肌効果を感じてみては!

島のまち並みの風景—玉石垣(たまいしがき)が続く道

利島の集落は斜面にあり、坂道には荒波にもまれ、角がとれて丸くなった玉石で造られた垣根の連なる風景を見ることができます。かつては、集落内のすべての道が玉石で覆われ、先人たちは男も女も玉石を肩にかついで、海から陸へと運び、積み上げたと言われます。

今でも集落内の間道や山の中腹にある神社の参道には、すべてが玉石で造られた古来の道が残されています。シダやコケに覆われた玉石垣には趣があり、のどかで人の温かみを感じる利島の風景をかたちづくっています。



見所③【海の幸-BIGな伊勢海老とサザエ】

特大サイズの伊勢海老やサザエは、利島を代表する海産物です。島の周辺は潮の流れが速いので、そこでとれる魚介類は身が締まっていて、食感も良く美味しいと評判です。これは、乱獲をせず、大切な資源を守り育てる漁業の推進により、自然とサイズが大きくなるのだそうです。

利島では、伊勢海老は200～600g、サザエは350g前後が標準サイズとされ、さらに大きなものになると1Kg近いものがとれるそうです。（一般的に、伊勢海老は300g、サザエは200gほどで大サイズとして扱われるようです。）

これらの海産物は、年々水揚量も増え、島外への出荷量も着実に伸びています。販売は利島村漁業協同組合で行われています。皆さんもぜひ実際に見て、豊かな海の幸をお土産にしてみたいはいかがでしょうか。

BIGサイズ!!



▲見事な伊勢海老！

利島港と「はしけと海の歴史広場」

海の玄関口である利島港は、島唯一の港で、島の暮らしを支える基盤施設です。しかし、断崖絶壁が取り囲む利島は、湾のない地形のため、外海に人工の栈橋を突き出す形で港を整備しなければならず、長い間港が整備されませんでした。そのため、定期船が就航してまだ30年ほどであり、また、風や波の影響を受けやすく、就航が安定しないという現実があります。

港が整備される前は、貨物船が着岸できないため「はしけ」と呼ばれる小船が荷下ろしに使われ、沖合に停泊する船と島とを結んでいました。「はしけと海の歴史広場」では、実際に使われていた「はしけ」や海の歴史を物語る資料が展示されており、先人たちの苦労がしのべれます。



▲栈橋に高速ジェット船が着き賑わう港



▲「はしけと海の歴史広場」のはしけ

イルカ&ダイビング



利島港周辺には、複数頭のミナミバンドウイルカが棲み付いており、野生のイルカと一緒に泳いで遊ぶドルフィンスイムができます。

また、スキューバダイビングも行われており、ドルフィンスイムとダイビングを両方体験できる珍しい場所です。

島周辺の海中では、イルカのほかに、様々な回遊魚が群れをなす迫力ある光景を見ることができます。アオウミガメやネコザメなどの大型回遊魚と出会うチャンスもあるそうです。ぜひ島の海中世界を味わってみてはいかがでしょうか。

華麗に咲く「さくゆり」



6月中旬から7月の初夏には、島の至る所に自生している、さくゆりがいっせいに花開きます。

さくゆりは、人の背丈まで伸びる世界最大級のユリで、気品あふれる純白の大輪の姿が山の中に美しく映え、訪れる人々の心を和ませてくれます。

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第4回〈利島村〉

利島村役場(平成25年4月1日現在)

- *所在地 東京都利島村248番地
- *村 長 梅田 和久(うめだ かずひさ)
- *職員数 26人
- *財 政 決算収支(平成23年度 普通会計)
歳入1,074百万円
歳出1,055百万円
- *主産業 椿産業・農業・漁業
- *目 標 ・「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」
の創造を目指し、快適で
住みやすい島づくり
・活力ある島づくりを重点
目標とし、生活環境基盤
及び産業振興基盤を整備
する。



▲梅田和久村長



▲利島村役場外観

島の信仰の中心-神社

島の集落には、島の氏神様を祀った阿豆佐和気命(あずさわけのみこと)神社があり、社殿は1760年に建造されたと伝えられる利島最古の建物です。また、宮塚山の中腹にも3つの神社があり、いずれも玉石造りの急な参道を登るとご本尊があり、周囲の原生林を含め神域が東京都の史跡に指定されています。(写真はその一つの下上(おりのぼり)神社)



▲原生林の中にある神社

利島村郷土資料館

「利島の暮らし」をテーマにした資料館で、島内各地から出土した石器や土器、生活道具、産業用具、明治期の民家の復元模型などが展示され、縄文時代から現代までの生活文化や、椿栽培、漁業などの産業の移ろいが紹介されています。

なかでも、航海の安全と豊漁を祈願するために平安時代から江戸時代中期に作られたといわれる28面の銅鏡は、島の文化と歴史を伝える貴重な資料であり、東京都の有形文化財に指定されています。



▲昔の椿油の製造具の展示



▲銅鏡など歴史的な出土品の数々

役場職員インタビュー



利島村 総務課
おぎの りょう
荻野 了 さん

平成20年入庁。現在は総務課で企画や広報などに携わっている。
写真の荻野さんが両手に持つのは、利島名物の特大サザエ!

利島は荻野さんにとってどんな島ですか?

小さな島に集落が一つあり、皆が助け合って生活しています。都会のような便利さはありませんが、あくせくしておらず、ゆったりとした時間が流れています。のどかさの中に、人と人との温かい心の通い合いがあり、島の人々皆が「大きな家族」のように感じられる島です。

現在の仕事の目標はなんですか?

利島の椿油造りは、約250年も続く貴重な伝統産業です。担い手の高齢化や後継者不足などの課題がありますが、利島にしかない魅力を積極的に発信し、1ターンやUターンを促すなど島の活性化や発展に貢献したいと思っています。

利島を訪れる方へメッセージをお願いします!

利島では、椿が季節を知らせてくれます。満開の椿花は冬の寒さを、たわわな椿実は初夏を告げてくれます。利島はいわゆるリゾートの島ではありませんが、都会の生活にはない静かな世界があります。豊かな自然、山からの雄大な眺め、美味しい海の幸があります。のんびりとくつろぎたい方は、ぜひ来島して、見て感じていただきたいと思っています。私も喜んで利島の魅力をいっぱいご案内させていただきますよ!

皆様のご来島を心よりお待ちしております。

出張フォーラムを開催しました!

本紙2013年4月1日号において、普及啓発事業として実施することをお知らせしました「出張フォーラム」ですが、第1回目を実施しましたので報告します。

この「出張フォーラム」は、当調査会が平成24年度に実施しました調査研究事業について、多摩・島しょ地域の市町村に出向いて職員向けに調査研究結果のプレゼンテーションを行う事業で、本年度から開始したものです。平成25年6月3日(月)から10月31日(木)までの期間に、各市町村からの希望に基づき実施します。

第1回出張フォーラム in 清瀬

平成25年6月28日(金)に清瀬市役所において、出張フォーラムの第1回目を開催しました。調査研究テーマは、「市町村の総合計画のマネジメントに関する調査研究」でした。

清瀬市では、長期総合計画を策定するためにプロジェクトチーム方式で内容の検討を行っているとのことで、そのメンバーを中心に参加された24人を前に、担当研究員2人が調査研究内容についてポイントとなる部分の解説を行いました。



▲熱心に聞き入る会場



▲2人の講師(調査会研究員)

まだまだ募集しています!

出張フォーラムは、平成25年10月31日(木)までを実施期間としております。各市町村からの希望の受付は、実施希望日時の3週間前までです。まだ、実施期間として余裕がございますので、「これはぜひ聞いてみたいな。」と思うようなテーマがございましたら、4月24日付けで多摩・島しょ地域各市町村企画担当課へお送りしました「出張フォーラム希望票」にご記入の上、当調査会調査部まで提出いただけますようお願いします。

【出張フォーラム対象調査研究一覧】

- (1) 市町村の総合計画のマネジメントに関する調査研究
- (2) 地域商店街の公共的役割と自治体の支援に関する調査研究
- (3) 指定管理者制度の運用に関する実態調査
- (4) 自治体による学生の活用に関する調査
- (5) 島しょ地域における再生可能エネルギーを活用した地域づくりに関する調査



オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、平成25年度も自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及、啓発を目的とする市区町村の自主事業に対する助成を行っています。今回は福生市の事業について紹介します。

第11回 ふっさ環境 フェスティバル

～君のエコが世界を変える～

「ふっさ環境フェスティバル」は、環境にやさしいライフスタイルや自然との共生について関心を持ってもらうことを目的にした野外イベントです。今回も、出展団体の方を中心に構成される実行委員会で、前年11月からイベント内容などの検討を重ね平成25年6月2日(日)に開催しました。

今回はステージイベントに、環境フォーラム「森の遊び人やまだようじさん(NHK E テレ「モリゾー・キッコロ森へ行こうよ!」に出演中)と遊ぼう!」も加わり、開催していた5時間ほば休みなくステージイベントが続きました。中でも、新宿エコレンジャーショーや法政大学山崎ゼミナールによる、わくわくほうせい化学実験ショーなどは、子どもたちに大人気でした。



▲いろんなキャラクターが来ました

一方ブースでは、学童クラブと児童館のエコ工作や、わくわくほうせい!の化学実験、福生中央ロータリークラブの巣箱作りなど、来場者も参加できる出展内容を多くした結果、イベント終了まで会場は多数の来場者でにぎわいました。

今回、特に子どもたちから人気だったのが、廃材利用の一環で作成したダンボール迷路でした。実行委員会の方の協力もあり、大きな迷路を作ることができました。



▲廃材利用のダンボール迷路



▲会場にはたくさんの方がいらっしゃいました

多摩東京移管120周年 記念イベント

はやぶさ特別講演と映画鑑賞会



多摩東京移管120周年

多摩の魅力発信プロジェクト

はやぶさ2号のプロジェクトマネージャー國中均氏が語る 「はやぶさが切り拓いた未来!」—共に歩む多摩—

多摩に立地する企業もバックで支え、小惑星探査機はやぶさは帰ってきました。はやぶさ2号の計画が進むいま、1号の栄光の軌跡とこれからの宇宙開発について一緒に考えましょう。

・日時 平成25年11月27日(水)午後1時20分(開場 午後1時00分)

・場所 府中グリーンプラザ けやきホール

・内容 映画 「はやぶさ 遙かなる帰還」
「絶対にあきらめない」日本の技術力・人間力が世界を変える。

講演

演題 「はやぶさ1号2号による小惑星探査」

講師 JAXA(宇宙航空研究開発機構)教授 國中 均(くになかひとし)氏(工学博士・はやぶさプロジェクトマネージャー)

・入場料 無料

・申込資格 多摩地域市町村にお住まいの方、通勤、通学している方(小学校高学年以上)

・応募方法 往復はがきに応募者全員の住所、氏名、電話番号、年齢、性別をお書きの上、返信用はがき表面に郵便番号、住所、氏名を記入し下記にてお送りください。1枚のはがきで2名まで応募できます。

・申込期限 平成25年11月3日(日)当日消印有効

・定員 400名(定員を超えた場合抽選となります。)

・申込先 〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター内「120周年記念イベント」係

市長会から



平成25年7月25日(木)に、市長会議が開催されました。主な内容は、下記のとおりです。

○東京都等からの連絡事項について

東京都スポーツ振興局から、「オリンピック・パラリンピック競技大会招致活動」として、IOC評価委員会への対応など、これまでの招致活動と、今後の招致活動予定について報告がありました。併せて、「スポーツ祭東京2013」の開・閉会式の概要について報告がありました。

○平成26年度東京都予算編成に対する要望(案)について

都知事に対して要請する多摩26市の予算要望を「多摩地域に対する都政の取り組みに関する要望」としてまとめました。要望は、①平成26年度予算編成について ②防災事業の充実と財政措置の確立についての2項目です。

また、市長会内に設置されている4部会(総務・文教、厚生、環境、建設)ごとの要望を、都関係各局に対して提出することを決定しました。

(要望数は、重点要望38項目、一般要望54項目、合計92項目)

○東京都市長会役員の選任等について

星野・前国分寺市長の退任により、東京都市長会役員、監事の席が空席となったことから、後任として邑上・武蔵野市長が選任されました。併せて、邑上・武蔵野市長が監事に選任されたことから空席となった政策調査特別部会長には、稲葉・小金井市長が後任として委嘱されました。

任期は、ともに本年7月25日から27年4月30日までとなります。

○子宮頸がんワクチン予防接種に関する対応について

子宮頸がんワクチン予防接種に関する対応について、6月14日付厚生労働省通知により、定期接種に位置づけたまま勧奨を控える措置となりました。このことから、市民の混乱が避けられない状況となっていることから、国の責任において早急かつ適切な対応を講じるよう、所管省庁へ要請することに決定しました。

○平成25年度政策提言テーマについて

市長会で取り組む政策提言のテーマについて審議した結果、「(仮称)選ばれるTAMAになるためのシティプロモーション」に決定しました。

政策提言は、多摩26市が共通して抱える課題について調査、検討を行い、事業化に向けた取り組みや、国、都などの関係機関に働きかけるものであり、平成13年から14回の政策提言を行ってきました。

今回の政策提言では、人口減少社会の到来により、多摩地域をはじめ都心部周辺地域では、いかにして住民を定着させ、新たな住民の流入を誘致するかが喫緊の課題となっていることから、「スポーツ祭東京2013(東京多摩国体)」の開催を契機として、26市が合同で、住民や団体、企業等と一丸となって、多摩地域全体の魅力をPRし、「住みたい」「行ってみよう」「働きたい」まちとしてのブランド力が形成できるよう、効果的な手法を検討し、具体的な提案を行っていきます。

 機関紙「What's New?」最終号に寄せて

～長い間ご愛読ありがとうございました～

10月発行号から「ぐるり39」へとリニューアルします

調査会の機関紙「What's New?」は、調査会設立の翌年、昭和62年8月に第1号を発行しましたが、当時はB4版、2色刷りで紙面も2ページでした。その後、第70号から現在の形になり、本号で計301号の発行をしてきましたが、来月の10月号からは、「ぐるり39」という名称に変更し調査会機関紙としての歴史を継承していくこととなります。

皆さんに親しまれ、26年間に亘って発行してきました「What's New?」ですが、これまでの発行のあゆみとして、過去の内容を振り返って見たいと思います。

発行のあゆみ

記念すべき第1号の記事は、調査会主催の講演会の開催状況を掲載したもので、「多摩・島しょ地域の市町村が持っている特徴を、集め（「集積」して）お互いに手を取り合って（「連合」して）いくことが、この地域の活性化には必要不可欠である。」という趣旨となっています。これは、現在にも通じる調査会が目指すべき方向を示している言葉であると思います。昭和63年1月発行の第6号では、多摩・島しょ地域の振興方策等を検討するための学識経験者等による「多摩地域及び島しょ地域を考える委員会」がまとめた報告書の概要を掲載しています。この報告書では「多摩都市連合」の発足の提言がされており、広域連携の取組に先駆けた制度提案がされていたことは注目すべきことだと思います。第30号（平成2年7月発行）以降は、「多摩東京移管100周年記念事業」、いわゆる「TAMAらいふ21」に関連する内容の記事が増えてきます。そして、第72号（平成6年4月発行）には「多摩交流センター」のオープンを知らせる記事を掲載しています。「TAMAらいふ21」の成果を継承するために設立された施設で、以後、「多摩交流センター」を中心に実施する事業の紹介が紙面を飾る機会が増えていきます。

平成7年には、多摩地域のごみ減量とリサイクルの推進に向けた広域的取組のため、「ごみ減量・リサイクル推進室」を設け、紙面でその事業内容を積極的に情報提供するようになりました。この組織自体は、平成12年に無くなりましたが、その後も調査会では、毎年ごみ実態調査を実施しています。調査会設立15周年の節目の平成14年には、2020年の多摩のあるべき姿を描くため、「多摩ビジョン2020」研究会を立ち上げ、学識経験者や市町村職員による議論を重ね、平成16年に報告書として「多摩ブランドの創造」を発刊しました。この間、活動状況に関して、研究会の報告書を始めシンポジウムの開催、市町村職員からの提案公募などを掲載してきました。

現在、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」として実施している事業は、平成18年度に調査会内に新たに「共同事業推進部」（現在の事業部）を設置して、推進してきたもので、共同事業に関する様々な取組の紹介記事が、これ以降増えていきます。

また、東日本大震災のおよそ1年前（平成22年2月）に開催したシンポジウム「地震に負けない地域づくり」の開催状況を第259号（平成22年2月発行）でお知らせしました。平成20年度に実施した「事業継続計画」の策定に関する調査研究の報告をするともに、パネリストからは自助・共助・公助の必要性等を参加者に訴えかけたという内容で、参加者だけではなく、読者にとっても有益なものになったと思っています。

このように、「What's New?」には、フォーラム・シンポジウムの案内だけではなく、開催後の内容も掲載し、参加できなかった方に対しても情報提供をしてきました。

毎月発行する機関紙の原稿作成は、広報に関する紙面づくりをしたことがない職員にとっては苦勞が伴いますが、より親しみやすい紙面づくりを目指してこれまで編集作業を行ってきました。これまでのご愛読に感謝するとともに、次号から発行する「ぐるり39」もこれまでも増して読みやすく、役に立つ情報を提供してまいりますので、引き続きご愛読いただきますようお願いいたします。

 タイトル
ロゴの
変遷

WHAT'S NEW?

●昭和62年（No.1）～平成10年（No.116）

What's New?

●平成10年（No.117）～平成17年（No.200）

What's New?

●平成17年（No.201）～平成22年（No.260）

What's New?

●平成22年（No.261）～平成25年（No.301）

新 任 紹 介

 事業部長
稲石 誠

7月16日付けで事業部長に着任いたしました稲石です。直前は公立大学法人首都大学東京の産業技術大学院大学で管理部門に関する仕事をしておりました。

今後、市町村共同事業、広域的市民活動や学生による自主的活動への支援、広域的市民交流の場の提供、愛らんどリーグ・島じまんへの協賛などの事業を通じて、多摩・島しょ地域の活性化に資するよう、全力をあげて職務に取り組む決意ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

とっておき特産物

第28回 多摩市



桜ぼろろん

「桜ぼろろん」は、桜のまち・多摩市を全国に知ってもらおうと、「多摩市の手みやげプロジェクト」(市内企業、大学、団体が市と一緒に地域振興を進めることを目的としたプロジェクトチーム)が開発しました。

市内産の桜の塩漬けをトッピングした、塩味と生地の甘さのハーモニーが不思議な美味しさのスイーツです。口に入れると、ほろっと崩れるやさしい食感。ヒントにしたスペインの伝統菓子ポルボロンは口の中で溶けないうちに「ポルボロン」と3回唱えると幸せが訪れる言い伝えがあります。ぜひ一度味わっていただき、多摩市の手みやげにどうぞ！



販売価格 3個(1パック)=230円、12個(贈答箱入り)=1,050円、24個(贈答箱入り)=2,000円

販売場所 ・多摩市&長野県富士見町共同アンテナショップPonte(グリナード永山1階)
・K-Shop(京王多摩センター店)
・多摩市役所内売店(ひまわり)

記事、写真提供：多摩市広報広聴課
☎ 042-375-8111(代表)

発 行 (公財)東京市町村自治調査会
責 任 者 石井恒利
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1
東京自治会館4F
TEL 042(382)0068
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>